

## 統合報告導入の現状と課題

商学部准教授 譚鵬

二十一世紀における企業活動のグローバル化の進展により、企業はこれまで以上に広範な課題に取り組むことが強く求められている。しかし、財務情報の価値関連性の低下は近年度々指摘されており、財務情報の公開のみでは企業経営環境の変化に対応できなくなっている。そこで、財務報告を補足するため、企業報告の取り組みは企業の経済的パフォーマンスを表す従来の財務情報から社会・環境パフォーマンスを表す非財務情報の開示へと大きく舵を切りつつある。

ESG コミュニケーション・フォーラム (2014) の調査によれば、財務情報と非財務情報を統合して情報を開示するいわゆる統合報告書を公表している日本企業は年々増加し、2014年の統合報告書発行企業数は前年より約5割増え、142社となった。今後統合報告書発行企業はさらに増える公算が大きい。大槻 (2015) によれば、この142社のうち9割近くの企業は東京証券取引所第一部に上場している企業であり、規模の大きい企業ほど統合報告書発行に積極的に取り込んでいるという。阪 (2015) が世界の企業を対象に実施した統合報告企業の現状と財務的特性の調査では、2011年から世界中の企業の統合報告書の発行が急増していることがわかる。さらに、統合報告書発行企業は規模が大きく収益性も有意に高い

こと等が明らかにされている。

今後の統合報告の推進に重要な役割を担っている国際統合報告評議会 (IIRC) は、2013年に「国際統合報告フレームワーク」(IR フレームワーク) を公表した。大槻 (2015) によれば2014年には日本におけるかなり多くの統合報告書発行企業がIR フレームワークの影響を強く受けていたという。しかし、IR フレームワークには具体的な重要業績指標 (KPI) が示されていない。阪 (2015) は統合報告においては、サステナビリティの観点から各ステークホルダーとの価値のつながりを示すKPIが必要であるとし、ステークホルダー・マネジメントを通じてサステナビリティを達成してきた世界の長寿企業に焦点を当て、付加価値情報こそ有用なKPIであることを明らかにした。

統合報告は、企業の財務・非財務情報の重要な部分と企業の戦略等とを結び付けた上で、短期・中期・長期の企業価値を持続的にどのように創造するかを報告するものである (阪 2015、98頁)。しかし、統合報告書=ワンレポート=「一冊にまとまった紙媒体の報告書」ではなく (古庄 2015、68頁)、統合報告書は企業を理解しようとする全てのステークホルダーにとっての共通の入り口の役割を担うものなのである (阪 2015、98頁)。財務報告と非財務報告の統

合のあり方は、財務諸表または CSR 報告書が統合されて、存在しなくなるという意味での発展的な解消を含意するものでもないし、また財務情報と非財務情報を単に要約するものでもない。むしろ企業の持続可能な価値創造に係る簡潔なコミュニケーションのために統合した報告書が、統合報告の上部構造として一つのフォーマットを新たに形成するものと考えられる（古庄 2015、68 頁）。ところが、統合報告書を発行した日本企業の 77%は CSR 報告書を発行していないことが大槻（2015）の調査からわかっている。つまり、非常に多くの日本企業が統合報告書発行を機に、開示媒体を整理して統合報告書に一本化したのである。しかし、統合報告だけでは他のステークホルダーにとっては重要なサステナビリティ情報が開示されないおそれがある。そこで、統合報告によって CSR 報告書やサステナビリティ情報書が代替されてしまうと、重要性の名の下に切り捨てられかねない CSR 情報があると向山（2015）が警鐘を鳴らした。

統合報告は日本企業における開示が始ま

ったばかりであることから、今後、統合報告で開示されている情報が、市場においてどのように評価され、そして将来の企業価値創造にどうつながっていくのかを実証的に検証することが重要な課題である。

#### <参考文献>

大槻櫻子(2015)「未来を拓くコーポレートコミュニケーション:第13回日本企業の統合報告書に関する事例調査結果(前編)」『KPMG Insight』第11号、1頁~7頁。

阪智香(2015)「統合報告の国際的な研究・開示動向と KPI の提言」『会計』第187巻第1号、97頁~111頁。

古庄修(2015)「統合報告の制度化をめぐる財務報告の変容」『会計』第187巻第1号、68頁~82頁。

向山敦夫(2015)「統合報告と CSR 情報開示との位置関係」『会計』第187巻第1号、83頁~96頁。

ESG コミュニケーション・フォーラム (2014)『国内統合レポート情報』[http://www.esgcf.com/archive/a\\_repo.html](http://www.esgcf.com/archive/a_repo.html)、(2015年7月2日アクセス)。